

事業名称	地域活動拠点の充実をめざした地域協働組織づくり事業「城の西みらい構想プロジェクト」
団体名・代表者	城の西エリアマネジメント準備会 代表世話役 米谷啓和
協働の相手方	市民活動推進課、城西地区地域自治会、兵庫県立大学地域創造機構、NPO 法人スローソサエティ

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後の城の西エリアを見すえ、地域課題を浮かび上がらせ社会的包摂のかたちをさぐる ・地域内経済の循環、エネルギー自給、みどりのマネジメントなど多様な観点から地域の自立のかたちをさぐり、その拠点となる施設の在り方を描く ・民間の活力を生かした公民連携による地域経営のあり方をさぐる
内容	<p>社会エコシステム「城の西パートナーシップ」 既存の地域事業の協働化を進める上で、地域活動の姿についての自治会アンケートを実施。</p> <p>環境エコシステム「城の西パークマネジメント」 グリーンウォーキング、コミュニティスポーツ、野菜づくり・収穫、緑肥とヒマワリオイルのためのひまわり栽培、ヒマワリオイル搾り体験、堆肥づくりなどを行った。</p> <p>環境エコシステム「城の西オイコノミア」 地域内循環経済を意識したイベント「城の西サバイバル」を開催し、地域内で経済を循環させるための工夫と意識を向上させた。また「地域内経済を考えるシンポジウム」を開催した。</p> <p>「城の西みらい構想」提言書作成 上記3項目全体と、これからの地域協働組織づくりを踏まえた提言書を作成した。</p>
経過 事業	<p>通年：御前山広場で小さな循環づくり、地域スポーツ 8月：「城の西サバイバル」実施</p> <p>11月：「グリーンウォーキング」実施 12月：「地域内の循環経済シンポジウム」開催</p> <p>3月：「城の西 森ものがたり」「城の西みらい構想提言書」作成</p>
事業の効果	<p>城の西のみらいを考えたとき、日々の暮らし、子ども達、お年寄り、経済、交流、安心など、色々なテーマがあり、どれも大切でどれも不安がある。持続可能なまちを実現していくための、「社会」「環境」「経済」の3つのエコシステムを改めて点検した結果から、「自治会活動の担い手不足を解消する新たな社会基盤の構築」、「公園の里山化を通じた地域活動に子育て世代の取り込み」「地域への参画の裾野を拓げる地域経済循環活動の確立」が必要であると提案した。</p>
今後の展望	<p>9割を超える高い加入率で姫路市の社会サービスを支えてきた原単位である自治会活動であるが、支える役員の確保が今後ライフスタイルの多様化にともない、難しくなることは否定できない。この解決方法として、①これまでの社会エコシステムであった自治会活動を再編、②連合自治会の諸機能を見直し、③新たな社会エコシステムとなる地域運営組織（RMO）として脱皮させることを、みらい構想づくりの柱とする必要がある。</p>

【実施団体の事業総括・感想等】

<p>誰もが未来のまちのために気軽に参画できることとしては、「経済」のエコシステムである。「城の西サバイバル」で買い物行動を調べるチャレンジを行った結果、予想以上に金額ベースの地域自給率が低いことを発見し、地域乗数効果を高める購買活動にシフトしなければならないことが分かった。何を必要とするのかを表す買い物は地域への投票であり、地域経済の漏れバケツの穴を塞ぐ活動につながるものが常々意識できる有効な活動であると感じた。</p>

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

<p>【市民活動推進課】 20年後の城の西エリアを見すえ、地域内経済の循環、エネルギー自給、みどりのマネジメントなどの観点から事業に取り組みました。普段、何気なく、大手商業施設や市外で買い物をしていることが地域経済の漏れバケツの穴を大きくすることになり、持続可能なまちを実現していくためには、経済の観点からも地域への働きかけが重要であることがわかった。</p> <p>アンケートの内容からも、これまで受け継がれてきた自治会活動の中で、今後ライフスタイルの多様化にともない、支える役員の確保が難しくなることは否定できない。新たな社会エコシステムを担う地域運営組織（RMO）について、多様な世代が参画しやすくなる工夫など、引き続き、みらいに向けたデザイン構想の提言を期待したい。</p>
--